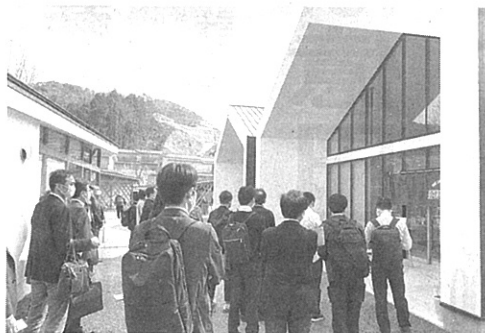


本紙で「商いの新しいものさし」を連載中の新しい創造研究所の松本大地氏が代表を務める(株)賑わい創研(東京都千代田区富士見2-10-2)は3月25、26日、同社員向けセミナー「NIGIWAIRLABO」を、三重県の「VISION」と

賑わい創研

名古屋市内で注目の商業施設「RAYARD Hisayadori Park」「イオンモールNagoya Noritake Garden(ノリタケの森)」で開催した。いづれも東海エリア注目の商業施設ということと、40人を超える参加があった。

東海の注目施設を視察



東海エリア注目の商業施設視察で参加者の関心は高かったようだ

初日の25日は晴天に恵まれ、まん延防止等重点措置が解除になったことや学生の春休み突入もあり、平日ながらVISIONや伊勢方面に向かう道で渋滞がみられた。

VISIONは温浴施設を展開する(株)アクアイグニスら4社が協力して開発した日本最大級の商業リゾート施設。東京ドーム24個分に相当する敷地約119万㎡に、宿泊施設やマルシェ、スイーツ店、農園など

およそ50棟が点在して構成される「食のリゾート」。その圧倒的なランドスケープや高低差を活かしたデザイン性に参加者の多くが圧倒されていた。ハード面だけでなく、その

こだわったコンセプトを具現化するために、テナント誘致においても施設のコンセプトを丁寧に説明した開発の苦労話に参加者は聞き入っていた。

参加者の多くはHOTEL VISIONに宿泊。温泉や、夜はサンゼバスチャン通りにあるバルなどで感染に注意を払いつつ賑わいを楽しんだ。翌日の朝は散策しながら各自様々な食事を体験した。オープン型でそれぞれの店舗から食を中心とした賑わいが溢れるライブ感。参加者は新しい商業施設の形に触れたようだった。

VISION、ノリタケの森など

市型の2つの商業施設を視察した。一つが2020年に開業した三井不動産のRAYARD Hisayadori Park、もう一つが21年にイオンモールが開業した都市型SC「ノリタケの森」である。RAYARDは、久屋大通公園と商業施設がPPFで一体となった点の特徴だ。24棟の商業施設に、約35店が出店し、貸床面積は約7200㎡。発信性と日常性を併せ持つエリアの新たなコミュニティをつなぐ。

名古屋の最大の商業地である栄地区に隣接しており、面が広がるエリアのポテンシャルを目の当たりにした。当日はあいにくの雨だったが、参加者は精神的に回った。ノリタケの森は商業施設とオフィスが融合し、店舗面積3万7000㎡、店舗数約150店の規模を誇る。陶磁器工場跡地であり、その歴史と伝統を残しながらも、SCオフィス、後背地のマンションを融合させた。レガシーを感じさせる開放的な外部空間と一体になった飲食店舗は、街区の価値を高める。洗練された飲食、物販、サービスの組み合わせの妙が際立つなど、国内最大の商業デベロッパーが見せる「SCの創造的挑戦」に参加者は体感した。NIGIWAIRLABOでは今後も様々な商業施設の視察を予定する。